

樟脳で動く船に親子ら歓声

加古川、海の環境考える行事に25人

樟脳を取り付けたプラスチック板の船が動きだし、喜ぶ親子―加古川海洋文化センター―



親子で海の環境について考え、防虫剤に使われる樟脳しょうのうで動くおもちゃの船を作るイベントが9月30日、加古川海洋文化センター（加古川市別府町港町）であり、市内外から10組25人が参加した。

同センターが主催し、加古川に鉄鉱石などを運ぶ旭海運（東京）が企画。

同社社員が、砂浜などにプラスチックごみがどこから、なぜ流れ着いたのかをビデオやクイズで紹介。生き物を苦しめる原因になっており、ごみを減らしたり、再利用したりすることにより「みんなが海を守ろう」と呼びかけた。

続いて、樟脳で動く船の工作へ。船や魚など思い思いの絵を描き、それぞれの形に切り取ったプラスチック板の後部に樟脳のかけらを取り付けた。水に浮かべると前進したり、ぐるぐる回ったりして、子どもたちから「動いた、動いた」などと歓声が上がった。（増井哲夫）